【4-7　評価シート　エビデンス総体】

診療ガイドライン	乳癌診療ガイドライン2018　薬物療法
対象	手術可能な浸潤性乳癌
介入	術前化学療法
対照	術後化学療法

エビデンスの強さはRCTは"強(A)"からスタート、観察研究は弱(C)からスタート
* 各ドメインは"高(-2)"、"中/疑い(-1)"、"低(0)"の3段階
** エビデンスの強さは"強(A)"、"中(B)"、"弱(C)"、"非常に弱(D)"の4段階
*** 重要性はアウトカムの重要性(1～9)

エビデンス総体

アウトカム	研究デザイン/研究数	バイアスリスク*	非一貫性*	不精確*	非直接性*	その他(出版バイアスなど)*	上昇要因(観察研究)*	リスク人数(アウトカム率) 対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標統合値	信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
全生存期間の改善	SR/10	0	0	0	-1	0		2316	576	25	2304	563	24	HR	0.98	0.87-1.09	強(A)	9	差がない
無再発生存期間の改善	SR/10	0	0	0	-1	0		2256	805	36	2254	791	35	HR	0.97	0.89-1.07	強(A)	8	差がない
乳房温存率の向上	SR/10	0	-1	0	-1	0		2870	1517	53	2422	878	36	HR	0.71	0.67-0.75	中(B)	6	乳房切除率で計算
局所再発率の増加(温存手術)	SR/11	0	-2	0	-1	0		871	61	7	959	82	9	HR	1.21	1.02-1.43	弱(C)	6	差なし
心毒性の発生頻度	SR/2	0	0	-1	-1	0		799	69	9	801	51	6]	RR	0.74	0.53-1.04	中(B)	6	差なし
血液毒性の発生頻度	SR・4	0	0	-1	-1	0		1367	189	14	1432	138	1	RR	0.69	0.56-0.84	中(B)	4	差あり

コメント(該当するセルに記入)

全生存期間の改善	SR				治療法がさまざまである													
無再発生存期間の改善	SR				治療法がさまざまである													
乳房温存率の向上	SR		異質性がある		治療法がさまざまである													
局所再発率の増加(温存手術)	SR		異質性が高く、異質性のない検討では有意な差がなくなる		治療法がさまざまである													
心毒性の発生頻度	SR			サンプル数が少ない	治療法がさまざまである													
血液毒性の発生頻度	SR			サンプル数が少ない	治療法がさまざまである													